

乳児健康審査におけるアレルギー健診の実態

向山 徳子, 馬場 実

(同愛記念病院)

要約：小児のアレルギー性疾患は増加の傾向にあり，小児健康診査の現場において，その診断，特に発症前における実態を把握することは将来の発症予防，早期治療のためにも極めて重要なことと思われる。出生前にアレルギー児の発症を予知し，その対応を講ずることは現在の医療体制のもとでは必ずしも容易ではない。そこで児出生後，できるだけ早い時期にアトピー素因児を把握し，適切なる指導を行うため東京都墨田区本所保健所，向島保健所にてアレルギー健診を施行したのでその状況について報告する。

見出し語：乳児健康審査におけるアレルギー健診の実態

アレルギー健診の事業概要

まず一般乳児健診にてアトピー体質児を選択する。対象の選択基準は二親等以内の親族にアトピー性疾患（気管支喘息，鼻アレルギー，アトピー性皮膚炎）を有し，かつ本人に湿疹，咳嗽，喘鳴，下痢，嘔吐など，アレルギー疾患を疑わせる症状を有する児を対象とした。

このようなアトピー素因児を対象とし，面接の上家族歴，食生活，環境などにつき問診を行い，小児アレルギー専門医の診察ならびに血液検査の上，保健指導ならびに栄養指導を施行した。血液検査の項目としては白血球数，好酸球百分率，血清 IgE 値，RAST（ダニ，ハウスダスト，卵白，

牛乳，大豆）について検査を施行した。

栄養指導にて除去食を指導した症例については，その後適宜，経過観察の上指導を行った。また1歳半健診時，3歳児健診時に経過観察を行う。

アレルギー健診の実態

昭和62年12月から平成1年2月までの間に，東京都墨田区本所保健所ならびに向島保健所地区にて出生した児につき健診を行った。昭和63年10月1日の国勢調査による同地区の総人口は226,203名（男112,234名，女113,969名）である。上記期間内に出生した児は2967例（男1522例，女1445例）であった。4ヶ月乳児健診後アレルギー健診にて専門医の診察後血液検査を施行し，保

健指導ならびに栄養指導を行った症例は 99 例であった。

家族歴におけるアトピー性疾患の保有状況は両親にアトピー性疾患を保有するもの 11 例，母親にアトピー性疾患を保有するもの 25 例，父親にアトピー性疾患を保有するもの 16 例，同胞にアトピー性疾患を保有するもの 13 例，その他の組合せ 34 例であった。

4 ヶ月乳健時にチェックしたアトピー素因児の臨床症状については湿疹 99 例，喘鳴 28 例，下痢 1 例，嘔吐 1 例であった。当地区における出生児におけるアトピー性皮膚炎の発症頻度は約 3.3% と思われた。

血液検査結果

血清 IgE 値の平均値は 49.6 IU/ml であり，RAST 陽性率はスコア 2 以上を陽性とした場合の陽性率はダニ (DP) 9/95 (9.7%)，HD 1/94 (1.1%)，卵白 47/96 (48.9%)，牛乳 13/96 (13.5%)，大豆 6/95 (6.2%) であった。

卵製品に関しては 3 ヶ月の乳児健診時にアレルギー健診を必要としたものについては離乳食にて卵製品の除去を指導しており，児は卵摂取を行っていないにもかかわらず 48.9% の高率に卵白抗原の RAST 陽性を示していた。

児において卵製品を摂取していないにもかかわらず卵白抗原の RAST が陽性に出現する理由としては，すでに胎内感作をうけている可能性があること，アトピー素因児，とくに湿疹を有する児では腸管の透過性が健康児に比し亢進していること，分泌型 IgA の低下があることより抗原が侵入しやすいこと，また抗原の投与経路としては母乳よりの侵入の可能性など種々の要因が

考えられるものと思われる。

これらの症例について問診票や検査結果に基づき保健指導，栄養指導を行った。

アレルギー疾患の予防

特定の抗原に対する IgE 抗体の産生は遺伝により規制されており，また環境における抗原物質の完全除去は不可能であり，また食物が生命維持や発育に必要な不可欠の物質である以上，アレルギー疾患を予防することは困難な面が多い。しかしアレルギーの強い家系の乳児において，アレルギー性疾患発症の予防のためにも，またアレルギー亢進の進展の防止のためにも，早期から生活指導，食生活の指導を行うことは有用なことと思われる。

この意味でも乳児健診におけるアレルギー健診が有効に行われるよう願うものである。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:小児のアレルギー性疾患は増加の傾向にあり,小児健康診査の現場において,その診断,特に発症前における実態を把握することは将来の発症予防,早期治療のためにも極めて重要なことと思われる。出生前にアレルギー児の発症を予知し,その対応を講ずることは現在の医療体制のもとでは必ずしも容易ではない。そこで児出生後,できるだけ早い時期にアトピー素因児を把握し,適切なる指導を行うため東京都墨田区本所保健所,向島保健所にてアレルギー健診を施行したのでその状況について報告する。